

PROFILE

酒井 秀 紀

富山医科薬科大学薬学部薬物生理学講座



本年2月より、富山医科薬科大学薬学部薬物生理学講座（生物物理化学研究室）を担当しております。先任の教授は竹口紀晃先生（現富山医科薬科大学名誉教授）です。私が竹口研究室に配属されたのは当大学薬学部4年次生の時（1984年4月）で、それ以来、大学院生、助手、助教授として竹口先生に本当にいろいろお世話になりました。研究面はもちろんですが、精神面で竹口先生に学んだところは非常に多いです。私にとって竹口先生は、血縁関係者以外で最も尊敬できる人です。

日本生理学会には1986年11月よりお世話になっております。これまで生理学研究所の岡田泰伸教授には胃酸分泌細胞のパッチクランプ、静岡県立大学の鈴木裕一教授には単離大腸粘膜のUssingチェンバーで温かいご指導をいただきました。生理学会で岡田先生、鈴木先生と巡り会えたことで、私が現在まで消化管上皮の研究を続けてこられたのだと感謝しています。

欧米の大学でも日本の大学でも、一つの大学に居続けるのではなく、次のステップに上がる時は、異なる大学に移ることが一般的に良しとされています。私も同感で、望ましいことだと思います。これに反し、私は入学以来これまでずっと富山医科薬科大学に在籍していますが、このような事例もたまにはあっても良いのではないかと思います。ちなみに私は当大学薬学部の卒業生で初めてのケースです。

富山は自然環境にたいへん恵まれています。東には3000メートル級の山々が連なる立山連峰がそびえ立ち、北には日本海が広がっています。空気がきれいで、水がおいしく、山の幸、海の幸が

豊富です。当大学は小高い丘の上であり、キャンパスからは、立山と日本海の両方が眺望できます。健康な体調で、研究テーマを豊かに発想し、実験に没頭することができる素晴らしい環境です。

私の研究対象は、胃や腸などの消化管細胞におけるトランスポーターとイオンチャンネルです。電気生理学的、生化学的、分子生物学的アプローチを用いて、組織、細胞、オルガネラ、分子レベルで、イオン輸送の新規メカニズムの解明を目指しています。またイオン輸送機構の異常と病態生理機能との関連性について明らかにすべくヒトの病気を意識した研究を行っています。当大学は医学部、薬学部、附属病院が棟続きで、5分以内で行き来できる位置関係にあります。私は医学部の先生方との共同研究で、手術摘出標本（ヒト胃、大腸、胆嚢）を実験に使用しています。いつも新鮮で状態の良い標本を得ることができ、信頼性、再現性の高い実験ができます。

教授室には、竹口先生が長きにわたり育ててこられた巨大なゴムの木があります。私もずっとゴムの木とともに育ってきました。同窓生や研究室員のシンボルツリーです。今後私が、歴史を積み重ねたゴムの木を育てることになり感慨深いものを感じています。今回の顔写真は、ゴムの木の前で撮りました。

現在研究室には、学生が12名おります。私がしっかりとリーダーシップをとり、若いパワーが燃え続ける研究室を維持できるよう精進を重ねて参りたいと思います。日本生理学会の諸先生方には今後も末永くお世話になりますが、よろしくご指導のほどお願い申し上げます。

略歴

- | | | | |
|---------|------------------------------|---------|--|
| 1992年3月 | 富山医科薬科大学大学院薬学研究科
博士後期課程修了 | 1996年9月 | 文部省長期在外研究員
(～1998年4月, フランスCNRS分子細胞薬理学研究所) |
| 1992年4月 | 日本学術振興会特別研究員 | 1998年5月 | 富山医科薬科大学薬学部助教授 |
| 1992年8月 | 富山医科薬科大学薬学部助手 | 2005年2月 | 富山医科薬科大学薬学部教授 |